

## 1 主要な施策の成果の概要

令和元年度は、後期基本計画の初年度として、市民の安全・安心の確保と市民生活支援に継続的に取り組むとともに、計画に位置付けた5つの重点プロジェクトを基軸に、「横断的連携による施策の推進」と「調布のまちの魅力発信」の2つのアクションの実践により、計画に位置付けた施策全体の効果的な推進に取り組みました。

横断的連携による施策の推進については、妊娠期から子育て期にわたる切れ目ない支援の充実や子どもの貧困対策、困難を抱える子ども・若者支援のほか、ラグビーワールドカップ2019™日本大会、東京2020大会に向けた取組など、各分野を横断し、組織や施策の枠を越えて対応すべきテーマについて、引き続き情報共有や課題解決に向けた連携・調整の充実を図りながら、取組を推進しました。

調布のまちの魅力発信については、市内で開催したラグビーワールドカップの開催期間を通じて、試合会場の東京スタジアムはもとより、調布駅前広場での都主体のファンゾーンや市独自のスクラムフェスティバルの開催により、予想を上回るにぎわいを創出することができました。

また、パブリックビューイングやスポーツ・文化の体験、平和祈念・国際交流事業等における市民参加による活動やボランティアによるおもてなしに加え、商工会、観光協会、文化協会、文化・コミュニティ振興財団など、多様な主体と連携・協働し、調布のまちの魅力向上に取り組むとともに、動画やソーシャルメディアを活用した市内外への積極的な魅力発信に努めました。

まちづくりの重点的な取組や諸施策の推進に当たっては、引き続き市政経営の2つの基本的な考え方の下、行革プラン2019に位置付けた、市民参加と多様な主体との連携・協働を推進するための各種取組など「参加と協働のまちづくり」の推進や、行政評価を踏まえた事務事業の改善、限られた経営資源の最大限の活用、財政の健全性維持などの「持続可能な市政経営」に向けた取組を進めました。

他方、令和元年10月に発生した台風第19号では、市制施行以来初の避難勧告を発令するなど、これまで経験したことのない事態に直面する中、調布市消防団をはじめ、警察、消防等の関係機関や、各種事業者組合、そして自治会や地区協議会、ボランティアの方々などに御協力をいただきました。市は、約6000人が指定避難所に避難し、200件を超える床上・床下浸水が発生した台風第19号の被害検証等を踏まえ、今後の防災対策の改善・強化に取り組めます。

また、令和2年に入り、世界各国に感染が拡大した新型コロナウイルスへの対応として、市は、国や東京都から示された方針や取組について、全庁的な共有を図るとともに、市民の健康と安全を第一に考え、感染の拡大防止を図るため、市主催イベント等を中止・延期しました。市は、国や東京都の動向を注視し、市民への適切な情報提供を図るとともに、東京都多摩府中保健所や調布市医師会等との連携の下、引き続き様々な対策に取り組めます。